



ジョナサン・ベネディクト

メディアに見るトラウマ



妻と私は、ほぼ毎日、幼子たちがうろうろする居間で夜7時のニュースを見ます。時々、大きな死亡事故や、自爆テロと逃げ回る人々の目を奪う映像が、子どもたちの注意を引くことがあります。

突然、みな動くのをやめ、目がテレビに釘付けになります。アナウンサーが何が起きたのか説明すると、子どもたちはあらゆる質問をしてきます。

「どうしたの？」

「ママ、いったい何の話？」

「誰がやったの？」などなど。

私たちは、「シー、静かにしてよ、聞こえないでしょ。テレビで遊んでいた子どもたちが、緊張し恐怖を抱き、安心を求めてママやパパの膝によじ上りたくなることに私は気づきました。

幸い、我が家で見るチャンネルは、それほどセンセーショナルな番組は流さず、遺体や血の流れる場面は見せません。しかし血なまぐさいシーンを求める現代では、これは例外的でしょう。最近では、バグダッドで破裂する爆弾、小学校での殺傷事件、少女の誘拐殺人事件などの例があります。ついこの間は、アメリカのヴァージニア工科大学で集団銃撃事件があり、だれもが殺戮事件の話をいやといふほど聞かされました。

私は決して、ダチョウのように砂に頭をうずめるとか、山の中で世捨て人の生活をすることがありますが、その前に、親としてできることがあることに気づきました。それは、「テレビを消す」とです。

私は、子どもたちがメディアに受け取る暴力場面とトラウマに対処できるよう助けようと、この記事を書き始めたのですが、その前に、親としてできることがあることに気づきました。それは、「テレビを消す」とです。

私は決して、ダチョウのように砂に頭をうずめるとか、山の中で世捨て人の生活をすることがあります。私が家で見るのではあります。私たち親が落ち着かなく生活の中に飛び込み、注意を引き、家の雰囲気を変えてしまします。私たち親が落ち着かなくなると、それがすぐに子どもたちに伝わり、さっきまで楽しく遊んでいた子どもたちが、緊張し恐怖を抱き、安心を求めてママやパパの膝によじ上りたくなることに私は気づきました。

幸い、我が家で見るチャンネルは、それほどセンセーショナルな番組は流さず、遺体や血の流れる場面は見せません。しかし血なまぐさいシーンを求める現代では、これは例外的でしょう。最近では、バグダッドで破裂する爆弾、小学校での殺傷事件、少女の誘拐殺人事件などの例があります。ついこの間は、アメリカのヴァージニア工科大学で集団銃撃事件があり、だれもが殺戮事件の話をいやといふほど聞かされました。

私は決して、ダチョウのように砂に頭をうずめるとか、山の中で世捨て人の生活をすることがあります。私が家で見るのではあります。私たち親が落ち着かなく生活の中に飛び込み、注意を引き、家の雰囲気を変えてしまします。私たち親が落ち着かなくなると、それがすぐに子どもたちに伝わり、さっきまで楽しく遊んでいた子どもたちが、緊張し恐怖を抱き、安心を求めてママやパパの膝によじ上りたくなることに私は気づきました。

幸い、我が家で見るチャンネルは、それほどセンセーショナルな番組は流さず、遺体や血の流れる場面は見せません。しかし血なまぐさいシーンを求める現代では、これは例外的でしょう。最近では、バグダッドで破裂する爆弾、小学校での殺傷事件、少女の誘拐殺人事件などの例があります。ついこの間は、アメリカのヴァージニア工科大学で集団銃撃事件があり、だれもが殺戮事件の話をいやといふほど聞かされました。

私は決して、ダチョウのように砂に頭をうずめるとか、山の中で世捨て人の生活をすることがあります。私が家で見るのではあります。私たち親が落ち着かなく生活の中に飛び込み、注意を引き、家の雰囲気を変えてしまします。私たち親が落ち着かなくなると、それがすぐに子どもたちに伝わり、さっきまで楽しく遊んでいた子どもたちが、緊張し恐怖を抱き、安心を求めてママやパパの膝によじ上りたくなることに私は気づきました。

幸い、我が家で見るチャンネルは、それほどセンセーショナルな番組は流さず、遺体や血の流れる場面は見せません。しかし血なまぐさいシーンを求める現代では、これは例外的でしょう。最近では、バグダッドで破裂する爆弾、小学校での殺傷事件、少女の誘拐殺人事件などの例があります。ついこの間は、アメリカのヴァージニア工科大学で集団銃撃事件があり、だれもが殺戮事件の話をいやといふほど聞かされました。

私は決して、ダチョウのように砂に頭をうずめるとか、山の中で世捨て人の生活をすることがあります。私が家で見るのではあります。私たち親が落ち着かなく生活の中に飛び込み、注意を引き、家の雰囲気を変えてしまします。私たち親が落ち着かなくなると、それがすぐに子どもたちに伝わり、さっきまで楽しく遊んでいた子どもたちが、緊張し恐怖を抱き、安心を求めてママやパパの膝によじ上りたくなることに私は気づきました。

幸い、我が家で見るチャンネルは、それほどセンセーショナルな番組は流さず、遺体や血の流れる場面は見せません。しかし血なまぐさいシーンを求める現代では、これは例外的でしょう。最近では、バグダッドで破裂する爆弾、小学校での殺傷事件、少女の誘拐殺人事件などの例があります。ついこの間は、アメリカのヴァージニア工科大学で集団銃撃事件があり、だれもが殺戮事件の話をいやといふほど聞かされました。

私は決して、ダチョウのように砂に頭をうずめるとか、山の中で世捨て人の生活をすることがあります。私が家で見るのではあります。私たち親が落ち着かなく生活の中に飛び込み、注意を引き、家の雰囲気を変えてしまします。私たち親が落ち着かなくなると、それがすぐに子どもたちに伝わり、さっきまで楽しく遊んでいた子どもたちが、緊張し恐怖を抱き、安心を求めてママやパパの膝によじ上りたくなることに私は気づきました。

幸い、我が家で見るチャンネルは、それほどセンセーショナルな番組は流さず、遺体や血の流れる場面は見せません。しかし血なまぐさいシーンを求める現代では、これは例外的でしょう。最近では、バグダッドで破裂する爆弾、小学校での殺傷事件、少女の誘拐殺人事件などの例があります。ついこの間は、アメリカのヴァージニア工科大学で集団銃撃事件があり、だれもが殺戮事件の話をいやといふほど聞かされました。

私は決して、ダチョウのように砂に頭をうずめるとか、山の中で世捨て人の生活をすることがあります。私が家で見るのではあります。私たち親が落ち着かなく生活の中に飛び込み、注意を引き、家の雰囲気を変えてしまします。私たち親が落ち着かなくなると、それがすぐに子どもたちに伝わり、さっきまで楽しく遊んでいた子どもたちが、緊張し恐怖を抱き、安心を求めてママやパパの膝によじ上りたくなることに私は気づきました。

幸い、我が家で見るチャンネルは、それほどセンセーショナルな番組は流さず、遺体や血の流れる場面は見せません。しかし血なまぐさいシーンを求める現代では、これは例外的でしょう。最近では、バグダッドで破裂する爆弾、小学校での殺傷事件、少女の誘拐殺人事件などの例があります。ついこの間は、アメリカのヴァージニア工科大学で集団銃撃事件があり、だれもが殺戮事件の話をいやといふほど聞かされました。

「主は羊飼いのように、その

つていることです。それで、最初の問題に戻ります。
子どもたちをどうしたらいいのでしょうか？ 私たちがどれほど予防線を張ったとしても、子どもたちは遅かれ早かれ見てしまいます。それでは、子どもたちが情緒的に受けとめかねる情報を取り扱うのを、どうやつたら助けられるでしょう。近所や学校で実際に暴力から来るトラウマを経験した子どもたちの場合ももっと深刻で、専門的な力やセンターの助けが必要になるかもしれません。現場から遠くから見たり聞いたりする子どもの親は何ができるでしょうか。実は、残虐な話はメディアだけのことではありません。先日、7歳と9歳の子どもたちのデボーションのために聖書を読んでいました。列王記第二の中からエリシャが死んだ子どもをよみがえらせる話など、有名な所を選んでいました。6章では、サマリヤの町が敵に包囲され、飢えた二人の女が交替で子どもを食べるという箇所に来ました。

私はすぐにその箇所を飛ばして読み進んだのですが、7歳の子が私が飛ばしたこと気にづいて、どんな話かを聞きたがったのです。それで、急ぎ分別を持

つて子どもが満足するように説明し、先に進みました。つまり、聖書の中にさえ残虐なことが出てきますから、避けようがないのです（ただし、これは画像を見せられるわけではありませんから、多少事情がちがいますが）。

専門家が言うには、暴力的忘れられないイメージを見るとき、幼児は親が味わっているのと同じ不安や心配を覚えます。死というものを理解できませんし、イメージが繰り返されるとき、同じことが再び起きているかのように勘違いします。

学齢期に入った子どもたちはもつと理解があるでしょうが、それでもレイプのような犯罪は彼らの理解を越えており、もし事件が複雑なものであれば、多くの疑問が湧いてきます。

親にできる「ことをまとめてみましょう」

1 子どもがふれているニュースの量を知る。

多過ぎると思ったら、時間を制限するのも親のつとめです。メディアは否定的なべきことを強調するくらいがありますから、テレビに接する時間が多いと、世の中を実際よりも危険な

ビから離れて！ 見えないじゃない」などと、いらいらしながら答えます。

同じような家庭もきっと多いと思います。メディアを通して流れのニュースは、私たちの生活の中に飛び込み、注意を引いて、家の雰囲気を変えてしまします。私たち親が落ち着かなくなり、恐怖を抱き、安心を求めてママやパパの膝によじ上りたくなることに私は気づきました。

ものと考えてしまふ可能性は大きいのです。

2 トラウマを与えると思われるニュースは、あえて見せない。

ネットを利用すれば、定期的にニュースに流れる内容はだいたい予想できます。子どもだけではなく、親だって不安を感じてしまうニュースは珍しくありません。人には見る自由もありますが、「見ない自由、見せない自由」だつてあります。見ないで損することなど、実はほとんどのことです。

3 子どもと一緒にニュースを見る。

言うまでもありませんが、何の指導もなしに、子どもだけでテレビを見る危険は、心乱れる画像が出て来た時に説明をし、助ける親がいることです。また、親がコントロールするためには、テレビを子どもの寝室に置くことは勧められません。

4 ニュースで何を見聞きしたかを、子どもに聞いてみる。

何か質問がないかとも聞きます。恐怖感や不安があるなら、それを聞きます。「残酷な内容を見聞きしたなら、こわくなつ

いでしょう。「それは、私の言いたいことではない」と言いましたが、果たしてそういうのですが、果たしてそういうのでしょうか？

私は、子どもたちがメディアに受け取る暴力場面とトラウマに対処できるよう助けようと、この記事を書き始めたのですが、その前に、親としてできることがあることに気づきました。それは、「テレビを消す」とです。



*本稿は、以下の記事を参考にしています。

Virginia Tech: Comfort the Hurting, Face the Fear by Wendy Cloyd, assistant editor (<http://www.citizenlink.org/CLtopstories/A000004392.cfm>)

可なしには幼い子たちはテレビを見ません。それで、我が家では夕方のニュースを見るとき以外は、暴力的な映像を目にする場所です。幸い、先のヴァージニア工科大学での虐殺事件の犠牲者の遺体や血の映像を、私は全く目に見ていません。テレビやインターネットでそれがありふれています。今日、これ 자체が奇跡ですが、その前に、親としてできることがあることに気づきました。それは、「テレビを消す」とです。

私は決して、ダチョウのように砂に頭をうずめるとか、山の中で世捨て人の生活をすることがあります。私が家で見るのではあります。私たち親が落ち着かなくなり、恐怖を抱き、安心を求めてママやパパの膝によじ上りたくなることに私は気づきました。

幸い、我が家で見るチャンネルは、それほどセンセーショナルな番組は流さず、遺体や血の流れる場面は見せません。しかし血なまぐさいシーンを求める現代では、これは例外的でしょう。最近では、バグダッドで破裂する爆弾、小学校での殺傷事件、少女の誘拐殺人事件などの例があります。ついこの間は、アメリカのヴァージニア工科大学で集団銃撃事件があり、だれもが殺戮事件の話をいやといふほど聞かされました。

私は決して、ダチョウのように砂に頭をうずめるとか、山の中で世捨て人の生活をすることがあります。私が家で見るのではあります。私たち親が落ち着かなくなり、恐怖を抱き、安心を求めてママやパパの